

飯山高校

# 桂雪会報

第6号

発行日  
令和5年2月28日  
発行人  
長野県飯山高等学校  
桂雪会長 宮本 衡司  
編集責任者 渡辺藤夫  
印刷所 (有)足立印刷所



## 百二十年の時の流れを想う

飯山高等学校同窓会 桂雪会 会長 宮本 衡司 (S45年飯山北卒)

令和5年卯年を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。桂雪会員の皆様には、日頃から桂雪会の活動に対しご支援とご協力を賜り心からお礼申し上げます。

私は桂雪会第3代目会長の宮本衡司であります。令和2・3年の1期目を終え、引き続き令和4・5年の2年間、会長として2期目を務めることになりました。これまでの経過を踏まえ、桂雪会発展のため尽力する所存ですので皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

### 新型コロナウイルス拡大の第7・8波に みまわれた令和4年度だったか

昨年度に引き続き、令和4年度もオミクロン株による新型コロナウイルス感染症の第7波の始まりの中、スタートしました。新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るいだしてから3年目となりましたが、次々に変異株が登場し、社会全体も翻弄されてきました。依然として、学校生活も感染症対策を講じながら送られていると聞いております。

しかしながら、学級や学年閉鎖の基準は緩和され、文化祭やクラスマッチ、研修旅行などの行事は計画通り実施されました。飯高祭では3年ぶりに一般公開がなされ、クラブ活動においても、いくつかのクラブで練習停止

### や出場停止があつたものの、何とか1年間の活動をやり遂げようとしているようです。陸上部や女子バレー部、男女ソフトボール部、ワンダーフォーゲルや弓道部といった運動部の活躍はスキーや野球だけでない飯山高校の底力を示してくれました。また、吹奏楽部や美術部、書道部、ダンス同好会等の文化部も地域で日頃の活動の成果を披露して、地域活性化に貢献してくれました。一方で、図らずも不運に見舞われた経験をした生徒の皆さんには、その経験をバネにして前に向かって進んで欲しいと願っています。

間もなく大学入学共通テストに向かう3年生は、この3年間、コロナ禍に翻弄されてきました。本人の進路への不安はもちろんです。保護者の皆さんも心配は絶えないと思います。しかし、コロナ禍という逆境の中で高校3年間を過ごした不屈の精神により、先行き不透明で、変動する社会を力強く生き抜いて行つて欲しいと願っています。

### 第3期SSHの中で、 これまでの取り組みが結実

第1期(平成22年〜26年)、第2期(平成28〜令和2年度)に続き、SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)として第3期目の指定が昨年度文部科学省よりな

されました。2年目となる今年度は、いよいよこれまでの取り組みの成果が結実してきているように思います。10月には、長野県学生科学賞で自然科学部の「バイオリアクターによる尿素分解〜アンモニア発電への活用に向けて〜」が県知事賞(1位)を、探究科3年生の「リングと同居で葉が白化? エチレン誘導クロロシスの解析」が県会議長賞(2位)をそれぞれ受賞しました。また、12月17日に行われた「信州サイエンスキャンプ」で、自然科学部の「エチレン誘導クロロシスの解析」が生物部門と総合部門で最優秀賞に輝きました。これにより、来年7月に鹿児島県で開催される「かごしま総文祭」の自然科学部門に県代表として出場することになりました。

スポーツ科学科や普通科における課題研究においても、興味使いテーマでの研究、競技や実生活に役立つ研究など生徒自身が思い思いに取組み、先生方も助言やサポート体制が整ってきていることが伺えます。WELL環境の整備やタブレットの利用も追い風になっていくよう期待したいと思います。

### 後期中等教育の灯がともって120年、 学校の変遷を振り返る記念事業

飯山高校は、飯山照丘高校、飯山南高校、飯山北高校の飯山市内3校が、平成19年(2007年)から2段階の統合を経て平成28年(2016年)4月に完成した統合校ですが、各校の発展的変遷の歴史を引き継いできています。この地に、最初に後期中等教育の灯がともつたのは、明治36年(1903年)の旧制長野中学校飯山分校の開校であり、令和4年度はそれから120年目を迎える節目の年でした。また、飯山南高校の前身である下水内高等女学校の創立から102年目、飯山照丘高

校のはじまりである飯山南高等学校の定時制課程の設置から75年目を迎えています。それぞれの学校の卒業生が、現在ひとつに統合された飯山高校の同窓会の会員として、共にこの長き歴史を振り返り、母校としての飯山高校の発展を応援していただければ幸いに思います。

桂雪会の初代会長である森司朗氏が桂雪会報第35号に寄せた文に「飯山中学校の誘致運動」が紹介されています。そこには設置が決まる20年も前から誘致運動が始まっていたこと、中野町と飯山町で激しい誘致合戦があつたこと、当時の飯山町長が町内有力者を説得し、多額の地元負担金を調達して飯山への誘致運動を展開したこと、結果、明治33年の県議会中で中野町に分校を設置する案が否決され、翌年に長野中学の分校を飯山町に設置する案が可決されたこと等が記されています。下水内高等女学校の設置や飯山南高校の定時制から飯山照丘高校への独立にも、それを支えられた多くの方々の熱い思いと並々ならぬご苦労があつたことと思います。このような長い歴史と先人の努力に対し敬意と感謝の思いを強くする次第です。

桂雪会としてもこの節目に、学校やPTAと共催で「飯山高等学校創立120周年記念事業」を行うことを決めていただき、令和5年10月14日(土)の記念式典を目指して準備を進めています。この2月から募金も始まることになりました。コロナ禍による経済の停滞やロシアのウクライナ侵攻による国際秩序の危機、物価高や円安など、近年の社会情勢や経済状況の中での募金というところで、大変心苦しい思いですが、できる範囲の中で母校を応援していただければ幸いです。何卒ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(令和5年1月)



## 溢れる母校愛に感謝

校長 湯本 武利

新年あけましておめでとようございます。平素より桂雪会の皆様には母校の教育活動を見守りいただき、また、ご理解とご協力、多大なご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

飯山の地に長野県立長野中学校飯山分校が開校し、後期中等教育の1つの灯がともされて以来、来年度で120年を迎えます。桂雪会の皆様を中心としたご尽力により令和5年10月14日に「飯山高등학교創立120周年（南100年、照丘75年、統合15年）記念式典」を開催する運びとなりました。この間、令和2年6月には記念事業準備委員会が立ち上げられ、募金部会、総務部会、式典・祝賀部会、記念誌部会、事業部会の5つの部会が設けられました。そして、今年度の6月には、名称を記念事業実行委員会に変更し、いよいよ準備も本格化しているところであり、桂雪会の皆様に大変お骨折りをいただいていることに心より感謝を申し上げます。そして、桂雪会の皆様とお会いしていつも思うことがあります。それは、皆様が母校愛に溢れていらっしゃる、大変生き生きとしていらっしゃる、ご自分たちの学生時代を語り合う時はもちろんのこと、今の学校の様子をお話しさせていただいた時も自分事のように喜んで耳を傾けていただき、母校への思いの強さには胸が

熱くなるものがあります。10月の記念式典には大勢の会員の皆様にご参加いただき、共に飯山の地の学びについて語り合えることを楽しみにしております。よろしくお願いたします。

さて、今年度は新たに186名の新入生を迎え、計571名（令和4年5月1日現在）でスタートしています。今年度も、コロナウイルス感染症対策により様々な制限がかかる中ではありましたが、行き先を台湾から関西方面に変更しての2年研修旅行、感染防御と熱中症防御の二重対策をしながら臨んだ飯高祭（文化祭）を行うことができました。未知なる経験の中で、すべての行事を生徒の大切な成長の場と捉え、智慧を出し合い課題解決に取り組んだ一年となりました。とりわけ7月に実施した飯高祭では、3年ぶりとなるクラス展示や市内パレードを実施し、飯山高生の誇らしい姿を見ることができました。二つほど紹介させていただきます。

クラス発表と体育祭など自分たちが楽しむ企画のみならず、果たして一般公開をどう迎えるのか、コロナ禍且つ生徒たちにとっては未体験の開催に心配は尽きませんでした。しかしここで、飯山高生の底力を知ることとなりました。見事に切り替えをして、一般公開に来校された方々のもてなしに努める姿があったのです。2日間の来

校者数はなんと2000名でした。昇降口ではクラス展示のPRポスターを首から下げ、公開開始と同時に呼び込みを行っていました。待ち時間が40分以上になるクラス展もありましたが、お待ちになる方々に椅子を用意し、うちわで風を送る姿がこちらこちらの会場で見られました。学校という空間の中で、自ら考え主体的に行動する姿がありました。

また、飯高祭3日目の午前中の企画、これも3年ぶりに学校から市内本町までのパレードを行いました。真夏日の暑さの中、吹奏楽部を先頭に各クラス趣向を凝らした仮装をしたのものでした。その中に忘れられない姿がありました。本町までのパレードを終え学校まで戻ってきた場面です。重い楽器を持って行進をしながら演奏を続けた吹奏楽部の生徒の姿。昇降口の前のわずか5段の階段の前で数名が立ちすくんでいたのです。わずか5段の階段ですが、「登れない」と言ってしまう場面を見つめていました。なんとという生徒たちでしょうか。そこまでにならないよう力を抑えることだっただけです。しかし彼らはそうしませんでした。自分の意志でパレードと真剣に向き合い、自分の可能性に挑んだ姿でありました。

桂雪会の先輩方が年月をかけて大切に慈しんでくださった土壌の中で、生徒たちは迷いなく真つすぐ探究に気持ちを向けることができている。長野県学生科学賞においては、今年度、「バイオリアクター」による尿素分解アンモニア発電への活用に向けて」が県知事賞を受賞、

「リングと同居で葉が白化？エチレン誘導クロロシスの解析」が県議会議長賞をいただきました。県知事賞は2年連続で飯山高校の受賞という快挙となりました。部活加入率が90%を超える中で、「勉強・部活・生徒会・学校行事」を真剣に追う飯山高生の逞しさが伺えます。

一方でこんなこともありました。転んで擦り傷を負い泣いて座り込んでいた小学生に声をかけ、寄り添いながら自宅まで送った生徒がいたのです。ご家庭から感謝の言葉を届けていただき知ることができました。ここ飯山の地で豊かで人として大切な感性が磨かれていると感じます。

飯山高校での様々な学びを通して己の可能性の魂を太らせている生徒たちに、さらしなやかな知性を身に着け、新時代をたくましく生きていく人になってほしい、そして幸せになつてほしいと願うところがあります。

今年も冬本番を迎え、まもなく全国高等学校スキー大会が開催されます。今年度は山形県が会場となります。選手たちは全国優勝を目指して、雪国飯山に朗報が届けられるよう力を発揮してくれるものと期待を膨らませながら、飯山高校のさらなる発展のために生徒と共に職員一同学校づくりに励んで参ります。

最後になりますが、桂雪会の皆様には、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いするとともに、桂雪会がますます発展されることを祈念してご挨拶いたします。

（令和5年1月）

## Super Science High schools 関連

### ❖ 進化するSSH ～第Ⅲ期SSH～

コロナ禍は未だ継続中ではありますが、少しずつ様々な外部イベントが参集で実施されるようになってきました。今年度は1年探究科の関東サイエンスツアーが復活し、名古屋サイエンスツアーといった新しい外部交流の機会も増えました。今はオンライン交流やICTとのハイブリッドな探究活動も珍しくなくなり、情報発信に積極的な生徒や質の高い課題研究が増えてきています。

一方で、コロナ関連で探究活動の機会を失った生徒へのケアや、探究活動を活かした進路実現が直近の課題です。これらの課題解決と生徒の主体的な学びのさらなる活性化を目指し、第Ⅲ期SSHは3年目に向かいます！

### 自然観察フィールドワーク・サイエンスツアー

#### ❖ フィールドワーク

5/30 (月) 1学年普通科・スポーツ科学科……なべくら高原森の家(飯山市)  
探究科……森の学校キョロロ(新潟県十日町市)

10/26 (水) 1学年普通科・スポーツ科学科……なべくら高原森の家(飯山市)  
例年のように、鍋倉山中・茶屋池・森の家周辺・松代地区<sup>まつだい</sup>などの場で、絶好の日和に恵まれたなかで、生活と自然との関わりについて学びました。

#### ❖ サイエンスツアー

8/8 (火)～9 (水) 探究科3年8名、自然科学部1年4名  
名古屋大学で課題研究の発表をおこない、様々な分野の研究者と交流して方法論や問題意識を高めました。また、名古屋市科学館ではノーベル賞受賞者記念室など多分野の視野を広げました。

10/14 (金)～15 (土) 2学年探究科  
本校での東京大学「星の教室」と、松代・上田研修との2班  
10/26 (水)～27 (木) 1学年探究科  
茨城県つくばにある宇宙センターを訪れました。



### 全国大会で入賞！ ～神戸でのSSH生徒研究発表会～

8月3日(木)～4日(金)に神戸国際展示場(神戸市)において行われた、令和4年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会にて、本校探究科3年(小松大地ら4名)の課題研究「コダカラベンケイソウの不定芽におけるエチレン誘導クロロシスの解析」がポスター発表賞(参加220校中、23校)を受賞。

審査員からは「研究の着眼点がよく、新規のエチレン応答を発見したことは高く評価できる」とコメントをいただきました。この大会での入賞は、県勢としても、本校の平成28年度入賞以来6年ぶりの快挙です。



### SSH フェスティバル

11月26日(土)、1学年探究科生徒の運営で実施し、小中学生ら約70名が参加しました。実験を通じて、科学の世界を楽しんでもらいました。



### レシピコンテスト全国大会で金賞！ ～SS2の成果～

1月8日(日)～9日(火)、大阪で第1回高校生レシピコンテストが開かれ、普通科2年の宮崎雛乃さんと山崎吏桜さんが、中国料理部門で最高賞の金賞に輝きました。試作段階では雪中で越冬させた飯山特産の甘い「スノーキャロット」で特訓を重ね、大会当日は指定された大阪産を用いたニンジンジュースを練りこみ、木島平産の蜂蜜や野沢菜も素材として、鮮やかなデザインの中華パンを完成!(ネットで、是非、カラーでご覧下さい)



